

重伝建選定から20年 湯浅の歴史を活かしたまちづくり

湯浅町教育委員会 歴史文化財係長 山本 隆重



歴史文化財係長 山本隆重さん

和歌山県下で唯一の重伝建に選定されている湯浅町伝建地区。歴史文化財係長の山本隆重さんに、選定から20年、この間の変化と課題について投稿していただきました。

1. 湯浅の町並み保存

湯浅町の山田川河口近く、JR湯浅駅から北西に歩いて10分程度のところに、湯浅町湯浅伝統的建造物群保存地区（以下、「伝建地区」という。）はある。面積にして約6・3ヘクタール、旧市街地のおおむね3分の1程度の範囲が、伝統的な町並みの文化財として保存されている。醤油醸造を中心に栄えた湯浅の町並みには、伝統的な建造物や、「通り」と「小路」で構成される特徴的な地割が残されている。

町並みを保存しようという動きは、平成9年に組織された行政や住民等からなるまちづくり委員会の提言が始まる。私たちにとって至極当たり前の景色であったこの町並みを、貴重な財産として見直そうというものである。平成11年度から12年度にかけて、その価値を明らかにする保存対策調査が行われ、その後、平成18年12月に国の重要伝統的建造物群保存地区（以下、「重伝建」という。）に選定されることに繋がった。和歌山県では唯一のことである。

選定以降、町並みを構成する伝統的建造物を保存し、歴史的な町並み景観を向上させるため、伝建地区では毎年、保存修理事業が行われている。現代的な工法で補修された部分を伝統的な姿に復原し、伝統的建造物を維持するための屋根の葺き替え等を行う際や、新しい建物を、伝統的要素を備えた外観にする等といった修景を行う際に、補助金を交付する仕組みをもって、町並みの伝統的な景観の向上に努め、同時に、伝建地区内における外観が変わるような行為について許可制とすることにより、景観を阻害するものを



湯浅町湯浅伝建地区

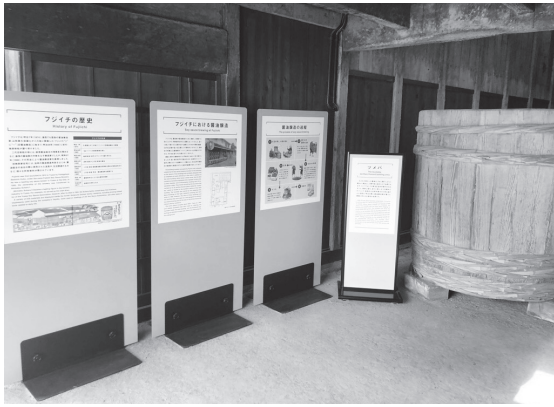
目次

重伝建選定から20年 湯浅の歴史を活かしたまちづくり 湯浅町教育委員会 歴史文化財係長 山本 隆重	1
地域と学校をどう持続させて行くのか 学校が再開された高野町富貴 FUKI CINEMA PARADISO代表 大谷 剛志さん	4
住民の移動手段確保の決め手になるか 有田川町公共ライドシェア始まる 有田川町企画調整課 山崎 一宏さん	7
お知らせ 2025年度、和歌山県地域・自治体問題研究所総会	8

わかやま住民と自治

発行／和歌山県地域・自治体問題研究所
和歌山市太田2丁目14-9 太田ビル203号
TEL・FAX 073-488-3127
jichiken@crux.ocn.ne.jp 2025年 6月号

2025年5月25日発行 第369号（月400円）



旧栖原家住宅における展示の様子

楽イベントなど）が行われるなど、自主的に地域を盛り上げようという動きがみられている。

2. 人が訪れるまちへ

こうした取り組みを受けて、湯浅の古い町並みを訪れる人は増加していった。ひとつの指標として、平成21年6月に開館し、保存協議会が運営を行っている施設である甚風呂の来館者数をみると、平成22年度には14588人であったものが、コロナ前の平成30年に30496人と倍増している。（直近の令和6年度は20721人）

この流れを受けて、伝建地

区や醤油醸造の歴史を核として、湯浅町全体で歴史を活かしたまちづくりを推進すべく、平成28年3月に「湯浅町歴史的風致維持向上計画」（通称「歴まち計画」以下、「歴まち計画」という。）を作成した。歴まち計画は、伝統的な建造物を核とした市街地景観の中で、伝統的な人々の活動が息づいているものを歴史的風致と位置付けて、それを維持向上することにより、まちづくりにいかそうというものである。平成28年度から令和7年度までの計画であり、現在、第2期計画に移行すべく、これまでの保存を中心とした取り組みから、文化遺産や歴史的風致を活用して様々な取り組みを進めていくという方針のもと、作業を進めている。

また、平成29年4月には、湯浅において醤油醸造が発祥し、湯浅の人々がそれを受け継いでまちを繁栄させてきた一連のストーリー『最初の一滴』醤油醸造の発祥の地『紀州湯浅』が日本遺産の認定を受けた。日本遺産とは、日本各地の歴史的なストーリーを、伝わった文化遺産を通じて体感できるものを認定し、国内外からの誘客に繋がる取り組みを支援する文化庁の事業である。当然、この日本遺産の核となるのも、伝建地区や醤油醸造の歴史である。これらの魅力を発信するため、醤油醸造の過程を知ることでできるVR動画の作成や、パンフレット、看板などの整備を行った。外国人観光客は、前述の甚風呂における外国人来館者数をみると、平成28年度には486人であったものが、令和6年度は1034人と大きく伸びている。

来訪者の受入機能も強化されている。伝建地区内には、甚風呂をはじめ、休憩所「岡正」や、「湯浅まちなみ交流館」といった来訪者の休憩・おもてなしを行う施設が複数ある他、令和4年11月には醤油醸造家が昭和の終わり頃まで醤油作りを営んでいた「旧栖原家住宅」の改修整備が終わり、案内板等による解説や、栖原家に伝わった民具等の資料展示、VR動画の体験ができる施設として、来訪者に無料で入館してもらえる施設として開館した。そのほか、令和2年には伝建地区のすぐ近くに大型バスが駐車可能な駐車場が整備され、令和5年には伝建地区内の一角に駐車場・トイレを備えた「湯浅まちなみの駅」が出来る等、来訪者の利便性は大きく向上している状況にある。

3. 伝建地区をめぐる諸課題

このように、伝建地区を中心とした湯浅町の歴史まちづくりは、重伝建選定後、様々な形で進捗を見せてきた。「湯浅II醤油のまち」というイメージが定着しつつあり、メディアで取り上げられることも増え、知名度は着実に上がっているといえる。伝建地区は、平成18年の重伝建選定から、来年で20年目を迎える。しかしながら、やはり時間を経ていくなかで、浮き彫りとなってくる課題もある。

まずは、伝建地区内の人口減少である。選定当初は400人を超えていた地区内人口は、令和7年には260人と大きく減少している。高齢化割合も高くなっており、少子高齢化の状況もある。人口減少や少子高齢化の問題は、伝建地区に限らず湯浅町全域での現状ではあるが、特に伝建地区のある旧市街地エリアで顕著である。これに伴い、地域コミュニティの先細りや後述する空き家の増加といった懸念が増加する。住民組織の活動力の減衰も大きな課題である。伝建地区内の自治会である北浜町区の住民によって、来訪者へのお茶出しや案内等がされていた「湯浅まちなみ交流館」では、コロナ禍の最中に健康への懸念から活動が中断され、その間にもメンバーの減少が著しく従来通りの活動ができない、となった例がある。地域住民で組織される保存協議会の委員数を見ても、その傾向は明らかである。重伝建選定の頃は、44名の委員で構成されていたが、令和6年度は23名と半減している。半減の要因には様々なものがあるが、委員が減少することはあっても増加することとは少ないのが現状である。

町並み保存の萌芽期に中心となつて活動していた世代が抜けていくことで、活動や思いの継承が困難となり、そもそもそれを継承する若い世代が非常に少ないという中で、いかに住民組織の維持・発展を図っていくかが課題である。

次に、空き家化の問題である。人口減少と密接に関連することではあるが、若年世代が都市部に出て、家庭を持ち、家を建て、そして地元湯浅に戻ってこない、結果、親世代がいなくなると空き家となつ



伝建地区を歩く観光客

てしまう。既に空き家になつていたり、このような流れを辿ることが目に見えている家が多くあるのが現状である。空き家化は、人口が少なくなっているという問題だけではなく、防災・防犯面の懸念のほか、家屋の老朽化の急速な進行に伴う伝統的建造物の維持が困難になることや、町並み景観を損なうことに直結する。最もいいのは、若年世代が湯浅に戻りたいと思えるような町ぐるみの取組みを進めることだが、完全な問題の解決には至らないことは想像に難くない。移住者を呼び込んで住んでもらう、あるいは空き家を活用した店舗など住宅以外の利用方法で建物を使っ

てもらおう、といった取組みが必要となってくる。

最後に、現在は顕在化していないが、今後起こりうる課題として、観光地化と住環境の維持との兼ね合いについて、考えておかねければならない。現在、全国には129地区（令和6年8月時点）の重伝建に選定された地区がある。中には、京都や金沢、高山、白川郷、倉敷等といった有名な観光地がある。重伝建Ⅱ観光地というわけではなく、観光地化を選択しない地区ももちろんあるが、やはり町並み景観が向上し観光地としての魅力が増加する地区はポテンシャルが高いエリアであるといえる。現状、湯浅の伝建地区においては、来訪者向けの店舗や宿泊施設などはあまり多いとは言えず、来訪者が訪れる割には観光地化が進んでいないといえる。それを、湯浅の魅力という人もいる。来訪者がまじまじと自分の住む家を覗き込むように見る、時にはプライバシーエリアに入り込んでしまう来訪者もいる。来訪者によるごみの問題や、狭小な道路ゆえの交通障害の問題なども今後起こりうることは容易に推測できる。このとき、それでも伝建

地区や醤油醸造の歴史の魅力を多くの人に知ってもらいたいのだ、となるのかどうか。あらかじめ、そこに住む人々の思いを考慮しておくことも必要なかもしれない。

4. これからの歴史まちづくり

重伝建の選定、保存修理の進捗、拠点施設の整備、同時に進行してきた人口減少や空き家化の問題。これまでの経過や、顕在化してきた課題を踏まえて、私たちは町並み保存の、そしてそれらを活かした歴史まちづくりを進めていかなければならない。

継続して、建物を所有する住民と連携を図りながら、保存修理事業を進めていく必要がある。伝統的な工法による修理事業を行った建造物は、やはり現代工法のものよりも劣化が進みやすい傾向にある。一度修理を行ったものも、2巡目、3巡目の修理事業が今後行われていくことになる。良好な町並み景観を維持するためにも、修理に携わる技術者の確保や養成が必要で、そのための技術者集団との連携も取り組み始めている。また、空き家活用を促した

めに、移住者の受入れや、伝建地区内における新規出店の促進に関する取組みを進展させていかなければならない。現在、湯浅町では移住・定住にかかる支援や、新規出店への支援制度が創設されているが、古民家を活用しての取組みに際しては、伝建制度における保存修理事業の対象が外観と構造にかかる部分のみであることから、内装の改修や浄化槽の設置などに多額の費用がかかり、なかなか実現しない傾向にある。今、地域おこし協力隊が入って、町内の空き家・古民家の活用にかかる相談窓口として活動を行ってくれているが、このような空き家を持つ所有者と、湯浅で何かをしたい移住者・出店者との間を繋ぐ役目は非常に重要で、期待するところが大きいにある。あわせて、さらにどのような支援が必要かを検討していく時期に来ているのではないだろうか。

周辺には、改修整備後に国の登録有形文化財となった湯浅駅旧駅舎や複合施設湯浅えき蔵を中心とした拠点ができた。この駅周辺と伝建地区を結ぶエリアには、熊野古道のルートでもある道町通りがあり、これを軸にして新たに立ち寄れるスポットを整備し、相互を歩いて巡れるルート作りを進めることが検討されている。湯浅町には、この熊野古道をはじめ、湯浅党関連の遺跡や、郷土の偉人の旧宅など、豊富な文化遺産や歴史が存在することにより、町の魅力度向上、ひいては町民の郷土への愛着が深まることが期待されるのである。

重伝建選定から20周年を迎えるにあたり、改めて振り返ることで、多くの取組みの進捗が見られる反面、新しい課題も出てきている現状が明確となった。町並み保存は、ある一定の時期をもって完了するわけではなく、文化財として未来永劫守り続けていく責任が私たち世代にはある。行政、住民、技術者、学識者、それに湯浅ファンとともに、継続して考え続け、取り組み続けなければならない。

地域と学校をどう持続させて行くのか

学校が再開された高野町富貴

FUKI CINEMA PARADISO 代表 大谷 剛志 さん



大谷剛志さん

昨年4月、子育て世代の移住により再開された高野町富貴（ふき）小学校。開校式で、教育長のあいさつは「今回の開校は、児童数の減少で統廃合が進む世の中の流れに対し、学校のあり方を問うメッセージ。教育の魅力で新たな移住者を呼び込みたい」と報じられました。橋本と五条に隣接し、標高600m、人口約300名の富貴地区でのこの間の取り組みと課題について事務局の阪辻、大前でお話を聞きに行きました。

富貴への移住

阪辻：大谷さんはどこから富貴に移住されたのでしょうか。
大谷：出身は九度山町です。田舎でいつか都会に出たいという思いがあって、結婚して大阪市に行きました。しかし息子が生まれたら都会での子育ては難しいとなって、九度山に戻ろうかとも思ったのですが、大阪市内への通勤は少し不便で、そこで橋本林間田園都市に移って5年ほどいま

した。

そこにいる時に、高野町地域おこし協力隊の方が行っていた「川で遊びましょう」というイベントに参加して、初めて富貴を訪れました。移住された方も何人かいると聞いて、こんな所で住んでいる人は凄いなと思ったぐらいです。当時移住には興味はなくて、たまたまその時に、今はお休みしていますが、「ちいさなたね」という、子育てカフェを訪ねました。移住の大先輩で、仕事をリタイアされたご夫婦がいて、元保母さんの奥さんが子どもを見てくれつつ、旦那さんが料理を出してくれるという、そういうカフェがちょうどオープンする時でした。「良かったら来てください」とお声がけをいただきました。それで何度か通いました。そこは、小学校の向かいでバーンとグラウンドが広がる景観

で、家も古民家を改装したい感じの店で、それが僕らの中では印象深く。「ちいさなたね」に遊びに来るような流れができて、そうこうしているうちに、自分たちの拠点が欲しいとなって、「ちいさなたね」の方や地域の方に紹介してもらって今のこの家を借りて、週末移住をすることになったのです。それが、7、8年前です。橋本の自宅から車で45分、意外とかかるのです。それで、息子が小学校の入学のタイミングでこっちに完全移住して来ました。その子が今、小学校5年生になります。

小学校の開校、分校から本校に、中学校の開校を願って

学校の話では、息子が小1で入った時は2人目で、先に移住していた家族の娘さんが入学した時に分校として開校して、息子が入った時は2年生でした。分校が開校したころは、僕は町民ではなかったで、学校との関りはなくて、ちょっとした地域の会議には参加していました。それで、児童1人でも学校を開け

るという話になって、僕らが2人目に続きました。そこから、僕らの友達が遊びに来たりしているうちに、ここはいないという感じで、移住する家族が3組くらい来てくれました。だから僕らが移住した後、3、4年で移住者が増えて、5家族ぐらいいになりました。それで僕らとしては中学校が将来的にどうなるのかというのが気になって、そこから教育委員会や高野町と話しを始めました。今年6年生の子がいます。

阪辻：今、中学校開校という話をしているのですか。

大谷：小学校は、分校として開いていたので、本校にという希望もあったのですが、それよりも中学校を再開してほしいという希望が強かったのです。

大前：ここから、高野山中学校まではどれくらい距離があるのですか。

大谷：ここから、一度山を下がってそこから上がって行くから、車で50分くらいという感じですよ。しかも、橋本から富貴へ来る道よりも整備されていない道路状況です。

分校時代、月に2回くらい本校に行くことがあって、そ



富貴小学校

の時は、タクシーに乗って50分かけて行って、交流や健診とかをして戻ってきました。
阪辻：高野町では小中一貫校で小学校、中学校とこども園や公民館も一体の「高野山学びの杜」になっているのですよね。富貴小学校には何家族何人の子どもさんがいるのですか。

大谷：今は4家族で小学生は9人です。小6が3人いるので、中学校を開けてほしいという活動を保護者を中心にな

話し合いをしたり、地域の人

と話したり、陳情書を地域の方にもお願いして出したりしています。

阪辻：保護者は、全部移住者の方ですね。以前からの住民の家族に子どもはいないので

大谷：いないのです。その世代の方がいないのです。僕らみたいな世代の人らはみんな富貴から出たのです。

大前：移住されて、どういうお仕事をしていますか。

大谷：僕は、奈良県五条市まで仕事に行っています。その前は、かつらぎ町での仕事でした。ここで仕事はないので

元々大阪で働いていて、それで移住を見据えてこっちで仕事を探して、近隣でもまあいけるみたいな感じですよ。

大前：移住された方も、ここに住んで、仕事は地域外でされているパターンが多いですね。

富貴独自の教育、 イエナプランを 取り入れた教育は

阪辻：富貴小学校のイエナプランを取り入れた学校というのはどうなったのですか。
大谷：もちろんイエナプラン

みたいな、子どもたちが自分たちで考えて、自立と共生というのでやっていくのは、保護者も望んでいたのですが、一段ずつ階段を登っていく中で、僕らは、元々は中学校を開けてほしいであって、先に小学校が本校化して、教育長から、富貴の環境で学習するのなら、いろんな教育があるけれども、イエナプランを取り入れて、独自の取り組みをといわれたのです。僕らも開校式の時に、以前から話が出ていたイエナプランに、期待が膨らんで、どんな変化があるのかと注目していたのです。

阪辻：イエナプランを取り入れた教育というのが、実際教える現場の教職員が、それが何なのかを理解して、日々の学校教育の中で生かされるのと、地域の中でそういう考え方に基づいていろんな実践、取り組みがされる。この2つが両輪としてしっかりしていないと、何々プランと言っても絵にかいた餅で、こうすればこういうメリットがあるとか、教育委員会も具体的な話がないと、プランが一人歩きしてしまうように思えるのです。

大谷：そうですね。今はだいぶその話も落ち着いてきていると思うのですが、僕らも最初は、どれくらい進んでいるのですか、どんな目標ですかと、結構追求をしていたのです。1年余りでだんだんわかってきて、教育長もイエナプランをやるとは言っていないと、イエナプランを取り入れた富貴の学習をすると言っていて、それなら独自のものは何なのかというところが、まだ2年目ということや校長先生が新しく来た中でのスタートなど、そんな急に変わらな

いというのが僕らの印象です。
阪辻：校長も含めて教師の集団で、どんな教育をすすめるのかの教育プラン作りはすごく大事だから、一朝一夕に出来ないけれども、保護者と共に作っていくような教育プランが出来れば。どこかで借りてきた教育プランではなく、作り上げていくような教育プランが、地域と近しい小規模校ではより大事だと思います。
大谷：僕らも、少人数で複式でというのだけでも、例えば橋本小学校と比べて全然違う環境だし、さらに言えば、もっとこの環境を生かしてもらいたい。イエナプランとかは、より子どもの自主性が磨かれるように思うのです。僕らも、もちろん学力も重要ですが、多少学力を期待できなかつたとしても、新しいことにチャレンジしてほしいと伝えられています。でも現場の方とかは、なかなかリスクを冒すにはいけないというのか、また、そういう教育プランを教育委員会が落としこめているかと言えば、なかなか難しい。

地域と学校の持続を どうして行くか

阪辻：地域の持続というのにも必要やけども、学校としての持続をどうしていくのか、個人の努力だけでは限界があると思うのですが。

大谷：僕らもそれは課題として抱えていて、今は4家族で、ある程度子どもがいる状況ですが、子どもは年々成長して、

イエナプラン教育

自立と共生を重視するオープンモデル教育。ドイツで創られ、異年齢グループで子どもたちがお互い学び、尊重し合うことを重視しています。



富貴の
自然と遊ぼう

2025 5.31(土) 参加無料
10:00 ▶ 16:00
雨天決行・荒天中止

1. お散歩 & 山菜採り
野花博士と一緒に皆さんば
食べれる草、くっつく草
あそべる草、珍しい花
山菜もでてるかな？
富貴の自然を体験しよう！

2. みんなでごはん
山菜天ぷら、羽釜ご飯、
野菜たっぷりお味噌汁
みんなでつくりますよ

3. 学校紹介
富貴小学校ってどんな学校？
実際に通っている子ども達の
保護者より紹介

4. ミニ運動会
みんなで玉入れ、綱引き、リレーなど

受付：9：30～
場所：富貴小学校（グラウンド・体育館）
〒648-0402 和歌山県伊都郡高野町東富貴 202
対象：未就学児～中学生とその保護者
参加費：無料
持ち物：うつわ・箸・飲み物・軍手・長靴・
動きやすい服装
※雨天の場合はプログラムが変更となる場合があります

富貴の自然と遊ぼう

ここにきた
ちました。
感じつつ育
く、それを
と距離を置
たらちよつ
よそ者が来
気というか
田舎の雰囲
身なので、
僕も田舎出
は人ですが、
もう1つ
魅力的です。
またその可能性を
少しでも高めたいというので、
新しい移住者とか、移住に興
味がある人との繋がりとかを
僕らも作り出して協力してい
きたい。さらに仲間を増やし
ていきたいと思っています。
次のステップを考えると
に、住居が重要だと考えてい
ます。移住に興味がある人は
以前にも結構いたのですが、
拠点がなかったり、住居が決
まらなかったりで、終わって
しまう。そこで今、有志で家

は人ですが、
僕も田舎出
身なので、
田舎の雰囲
気というか
よそ者が来
たらちよつ
と距離を置
く、それを
感じつつ育
ちました。
ここにきた

またその可能性を
少しでも高めたいというので、
新しい移住者とか、移住に興
味がある人との繋がりとかを
僕らも作り出して協力してい
きたい。さらに仲間を増やし
ていきたいと思っています。
次のステップを考えると
に、住居が重要だと考えてい
ます。移住に興味がある人は
以前にも結構いたのですが、
拠点がなかったり、住居が決
まらなかったりで、終わって
しまう。そこで今、有志で家

は人ですが、
僕も田舎出
身なので、
田舎の雰囲
気というか
よそ者が来
たらちよつ
と距離を置
く、それを
感じつつ育
ちました。
ここにきた

またその可能性を
少しでも高めたいというので、
新しい移住者とか、移住に興
味がある人との繋がりとかを
僕らも作り出して協力してい
きたい。さらに仲間を増やし
ていきたいと思っています。
次のステップを考えると
に、住居が重要だと考えてい
ます。移住に興味がある人は
以前にも結構いたのですが、
拠点がなかったり、住居が決
まらなかったりで、終わって
しまう。そこで今、有志で家

またその可能性を
少しでも高めたいというので、
新しい移住者とか、移住に興
味がある人との繋がりとかを
僕らも作り出して協力してい
きたい。さらに仲間を増やし
ていきたいと思っています。
次のステップを考えると
に、住居が重要だと考えてい
ます。移住に興味がある人は
以前にも結構いたのですが、
拠点がなかったり、住居が決
まらなかったりで、終わって
しまう。そこで今、有志で家

またいなくなるのは目に見え
ています。僕も学校運営協議
会のメンバーで、冬の運営委
員会で課題としてあげました。
富貴の地域や学校の魅力を
知ってもらわないといけない。
それで、このチラシですが、
5月31日に「富貴の自然と遊
ぼう」というイベントをや
ります。本当は学校、行政、保
護者、地域一体的な形でやり
たかったのですが、今回は調
整する時間が取れず、僕ら保
護者を中心となって、主催者
団体はフキシネマパラダイス
で行います。これは来年、再

来年も持続して、学校とか富
貴とか、この土地を知っても
らえる1つの行事としていき
たいと思っています。僕らも
富貴を知ったのは「川で遊び
ましよう」というイベントだ
ったので、これがそうなれば
と考えています。
大前：フキシネマパラダイス
はどんな団体ですか。
大谷：明治時代の富貴小学校
の建物を移築して、個人の方
が倉庫にしているのですが、
富貴で映画館を作りたいと、
その半分を地域の人がりフ
ォームして箱を作り、その運

富貴の魅力は
大前：富貴の魅力ってどうな
のですか。
大谷：僕は大きく2つあると
思うのです。ベタかもしれま
せんが、この自然と地域の
人。この2つで、自然も山の
中なので、空が開けて
いて、山間の村の景観でなく、
パッと山を
抜けてきた
里山みたい
なところで
魅力的です。
もう1つ
は人ですが、
僕も田舎出
身なので、
田舎の雰囲
気というか
よそ者が来
たらちよつ
と距離を置
く、それを
感じつつ育
ちました。
ここにきた

またその可能性を
少しでも高めたいというので、
新しい移住者とか、移住に興
味がある人との繋がりとかを
僕らも作り出して協力してい
きたい。さらに仲間を増やし
ていきたいと思っています。
次のステップを考えると
に、住居が重要だと考えてい
ます。移住に興味がある人は
以前にも結構いたのですが、
拠点がなかったり、住居が決
まらなかったりで、終わって
しまう。そこで今、有志で家

またその可能性を
少しでも高めたいというので、
新しい移住者とか、移住に興
味がある人との繋がりとかを
僕らも作り出して協力してい
きたい。さらに仲間を増やし
ていきたいと思っています。
次のステップを考えると
に、住居が重要だと考えてい
ます。移住に興味がある人は
以前にも結構いたのですが、
拠点がなかったり、住居が決
まらなかったりで、終わって
しまう。そこで今、有志で家

新たな移住者のための 「お試し住宅」を自分達で

時に、結構多くの人が迎え入
れてくれました。週末移住の
時に、いろんなコミュニティ
に入って、例えば畑をみんな
で耕す、畑耕し隊とか。テニ
スサークルにも行くし、今も
やっている、月1回のコミュ
ニティカフェとか、よくして
もらって、僕の中ではそれも
あって富貴の人はなんか違う
なみたい。

またその可能性を
少しでも高めたいというので、
新しい移住者とか、移住に興
味がある人との繋がりとかを
僕らも作り出して協力してい
きたい。さらに仲間を増やし
ていきたいと思っています。
次のステップを考えると
に、住居が重要だと考えてい
ます。移住に興味がある人は
以前にも結構いたのですが、
拠点がなかったり、住居が決
まらなかったりで、終わって
しまう。そこで今、有志で家

住民の移動手段確保の決め手になるか 有田川町公共ライドシェア始まる

有田川町企画調整課 山崎 一宏 さん



企画調整課 山崎一宏さん

有田川町の公共交通

有田川町は町の中心を有田川が東西に流れ、川に沿って幹線道路が通ります。そこから枝分かれした支線沿いに集落があります。路線バスは、町の西端にあるJR藤並駅か

昨年4月、「日本版ライドシェア」が解禁されたとニュースになりましたが、ライドシェアは、一般ドライバーが自家用車で、他の利用者を運送する相乗りサービスとなります。「日本版ライドシェア」には2タイプあり、一つは、都市部等で主にタクシー会社が運営を行い、通常のタクシー不足の需要を補うため行うもので、県内では和歌山市で行われています。もう一つは「自家用有償旅客運送制度」で、自治体やNPOが運営を行い、公共交通機関が不足している過疎地などで活用されます。県内では一部社会福祉協議会などが会員限定で行っています。

今年4月から有田川町で、自治体が行う自家用有償旅客運送事業（公共ライドシェア）が始まりました。事業を始めた経過や事業の狙いなどを担当者にお聞きしました。

ら、川沿いに金屋、清水、かつらぎ町花園をつなぎ、花園まではバスで約2時間弱です。その幹線ルートから集落へは町のコミュニティバスが金屋地域、清水地域に16路線あり、週1回300円で利用できます。また、予約でタクシーを借り上げる「みんなの定額タクシー制度」も行っています。

公共ライドシェアを始めるきっかけ

今回、路線バスを運行している事業所から清水く花園間のバス路線を休止したいと相談がありました。地域の要望

で休止はされませんでした。その半分に減便されました。その減便を補うため有田川町を事業主体とした公共ライドシェアを計画しました。実施にあたり、1月に関係者参加のもと公共交通会議を開き、そこで協議を整えて、運輸支局に申請して、登録されました。県下では公共ライドシェアを地方公共団体がやるのは、最初だと聞いています。

利用条件・料金など

実施条件は表のとおりですが、実施地域は、路線バスの減便地域、清水から花園間の地域です。地域内では自宅や目的地までドアツードアで行ってくれますが、地域外へは他の交通手段を使う必要があります。利用者は事前予約（前日13時まで）受付は平日9時から15時）すれば観光客でも利用できます。利用時間は7:30～18:30 1回の利用時間は1時間以内で、それ以上かかる場合は別に予約が必要。利用料金はバス料金を参考にしていますが、ほとんど20キロ未満になります。予約の受付や、運転手の管理や

配車などは、町から町内バス事業者に委託しています。

ドライバーや車両は

登録ドライバーと車両を募集して、10名が登録してくれました。ドライバーは国の認定機関の講習を受ける必要があります。橋本市の紀北自動車学校での受講と清水で講師を招いて講習会を行いました。車は運輸局への登録が必要です。今回ドライバーは70歳未満で、50歳から60歳台が中心で女性も3名います。車は軽トラか



有田川町ライドシェアの車

公共ライドシェア「有田川町コミュニティタクシー」が運行します

令和7年4月1日より、路線バスの減便の影響を受ける地域において、自家用有償旅客運送事業（公共ライドシェア）を実施いたします。

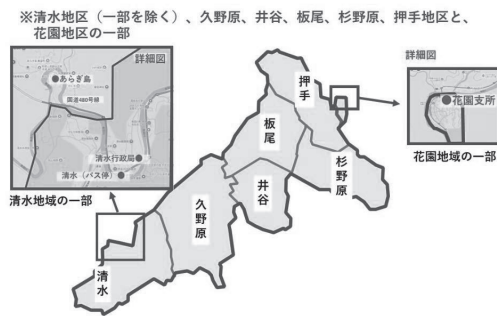
清水～花園地域での 公共ライドシェアの利用について

事前に予約をすることで、地域住民の登録ドライバーによる送迎が利用できます。

利用条件・料金など

項 目	内 容		
運行地域	清水地区の一部、久野原、井谷、板尾、杉野原、押手地区 花園地区の一部（運行区域内であればどこへでも行けます。）		
利用者の条件	どなたでもご利用いただけます。 ただし、介助の必要がなく単独で乗降が可能な方に限ります。		
利用可能時間	7：30～18：30		
一回の利用時間	1 時間以内		
事前の予約方法	前日の13時までに電話予約（予約受付は平日9時から15時まで） （専用ダイヤル080-4098-1741）		
距 離	10km未満	10～20km未満	20km以上
料 金	600円	800円	1,000円

公共ライドシェア実施区域



※清水地区（一部を除く）、久野原、井谷、板尾、杉野原、押手地区と、花園地区の一部

予約方法、詳しい内容をお知りになりたい方は、まず
有田川町役場企画調整課 ライドシェア担当
(0737-22-3293) まで お電話ください!!

有田川町ホームページより

「送迎してもらっていたが、わざわざ呼ばなくて済む」などの声をいただいています。

ドライバーさんは

役場で話を聞いた後、知合いのドライバーさんに電話で話を聞きました。

「最初役場から夫に声がかかったのですが、忙しいからと断り、私に回ってきました。講習を受けて、車の登録をしました。孫の世話もあるのです。週1日の約束で出かけています。最初はどうかと思いましたが、今までに5回送迎しました。利用者との会話が弾みます。ただ、アルコールチェックは電波の状態が良くないので、なかなか繋がらず苦戦します。

報酬はいただきますが、生活の糧になるものでなく、まさにボランティアです。車に貼るステッカーも少し恥ずかしいです。けれど、実施地域外からも「そういうのいいね」と言われます。対象地域が広がればと思います。先日新聞の取材を受けましたが、顔写真はNGにしました。」

お知らせ

2025年度 和歌山県地域・自治体問題研究所総会

日時 6月14日(土) 13:15～15:30 (予定)
場所 和歌山市勤労者福祉センター（和歌山市西汀丁34）4F 大会議室
議題 活動・決算・監査報告、運動方針（案）・予算（案）役員選出他
記念講演 「命の水を支える水道事業について」（仮称）
江原 太郎（自治労連全国公営企業協議会議長）

